



香川大学大学院教育学研究科案内

高度教職実践専攻

教|職|大|学|院

教育学研究科長 挨拶

香川大学大学院教育学研究科長
平 篤志



香川大学大学院教育学研究科は、1992年に発足しました。その後、2016年には研究科内に教職大学院（高度教職実践専攻）が開設され、さらに2020年には、それまであった教科教育専攻などは募集を停止し、教職大学院に一本化されました。

教育学研究科は、教職経験や学部教育を踏まえて、専門的知識、高度な実践的指導力、研究能力、倫理観・社会的責任、グローバルマインドを育成することによって、多様化かつ複雑化する内外の学校教育の諸課題の解決に寄与するとともに、地域福祉や地域文化の向上に寄与できる人材の養成を目指しています。学校力開発コース、授業力開発コース、特別支援力開発コースの3つのコースを設けて、皆さんの高度な学びを支援します。私たちと一緒に学びを深めませんか。

院生の声

院生の声 ～ともに学びませんか～

学部卒学生Aさんより

「小学校の先生になりたい！」夢を叶えるために、中学校免許しか取得していなかった私は県外の大学から教職大学院に進学しました。大学院と学部の講義の両立は大変ですが、ここで出会ったみんなに支えられ、充実した時間を過ごしています。また、大学院で学んだことと学部の講義で学んだことが結びついたとき、自分にとって深い学びができていると感じます。小学校教員になりたいという思いを諦めずに、香川大学の教職大学院に進学して本当によかったなああと心から思います。

学部卒学生Bさんより

教職大学院に来て、本当によかった——。夜、ベッドの上で今日一日を振り返るとき、私はいつもそう思います。その理由は、日々の講義にありました。

講義では、知見を広げ、学びを深めるべく、現職教員学生と学部卒学生が一緒になって討議に臨みます。現場の生の声を聞けるだけでなく、私のような学部卒学生も自分の意見を表現できる機会が多いです。充実感でいっぱいの時間を、教職大学院で送ってみませんか。

現職派遣学生のCさんより

教職大学院では、学びを深めることは当然ですが、多様な人間関係を広げられることも大きな財産だと感じています。大学の先生方、校種の違う先生方、学部卒学生等、様々な人との繋がりが新たなネットワークとして、自分自身の支えや助けにもなると感じています。例えば、12月に行われる「香川の教育づくり発表会」では、前年度修了した先生方が、フォローアップ・プログラムの一環として、在学中の研究を生かした置籍校での実践事例を発表して下さいました。そのような修了生との関係も実践研究を推進するにあたり、大きな力となります。まさに、先輩方が学び続ける教師の姿を見せて下さり模範となります。

教職大学院とは

教職大学院は、これまでの教育系大学院（修士課程）と比較して次のような特色をもっています。

- ① 「理論と実践の往還」を実現する教育内容・方法であり、講義や演習において、事例研究、模擬授業、双方向的・多方向的なディスカッションなど、実践的な指導法を取り入れていること。
- ② 課題を解決するために大学教員と協働的に取り組む実習が設定されていること。
- ③ 修士論文がなく、実践に基づく研究報告によるまとめを行うこと。

●香川大学教職大学院では

本学では、下記のような点でより充実した内容となることをめざして取り組みを進めています。

- ① 「香川県教員等人材育成方針」に対応したカリキュラムを編成し、社会や学生のニーズに応えられるよう不断の見直しと改善に取り組んでいます。
- ② 本教職大学院では、院生自身が履修計画を立て、学修を進めていけるように、独自の「履修カルテ」を開発・運用しています。
- ③ 香川県教育委員会及び香川県教育センターとの連携のもと、研修講師となっている指導主事等が担当する授業が設けられています。

カリキュラムの特色と構成

これからの学校教育を担う教職員には、確かな専門性に立脚した分析力・構想力と、複合的な学校課題や教育課題に組織的に対応できる実践力、発達障害を含む子どもの多様性や個性を理解した上で通常教育と特別支援教育をともに実行できる実践力が求められます。

教職大学院では、学校教育に関する理論と実践を共に探究し、学校現場の課題について、理論と実践の架橋・往還を可能とするカリキュラムを構築しています。

特に本学の特色は、「生徒指導と道徳教育に関する指導力育成」と「特別な教育的支援を必要とする子どもたちに対する指導力育成」に力点を置いたカリキュラムになっている点です。

カリキュラムの概要

科目区分	単位	領域
共通科目	19	・教育課程の編成実施に関する領域
		・教科等の実践的な指導方法に関する領域
		・生徒指導及び教育相談に関する領域
		・学級経営及び学校経営に関する領域
		・学校教育と教員の在り方に関する領域
・研究倫理に関する領域		
コース科目	18	・学校力開発領域
		・授業力開発領域
		・特別支援力開発領域
実習科目	10	・学校力開発 実習科目群
		・授業力開発 実習科目群
		・特別支援力開発 実習科目群
計	47	修了要件単位数

子どもの発達と発達障害に関する理解を重視した
発達支援の理念に基づく

道徳教育・生徒指導の充実

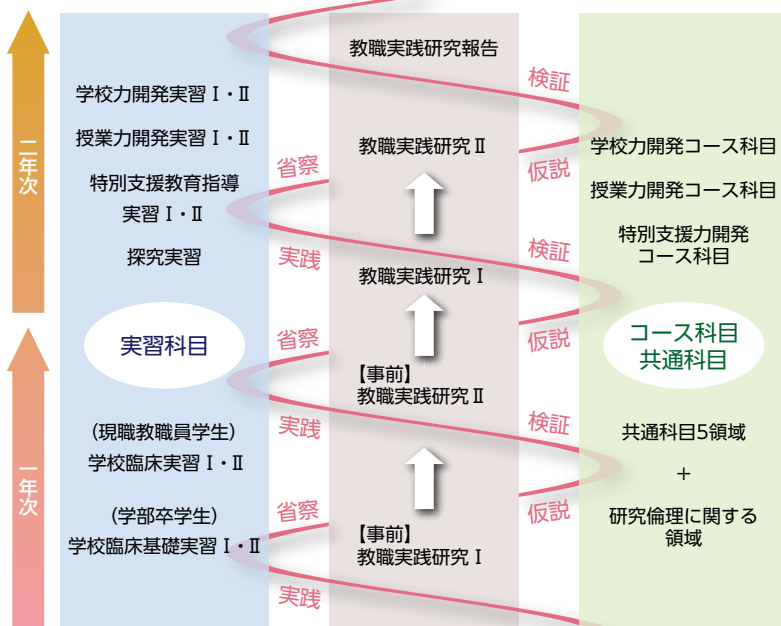
特別支援教育の充実

特別支援力開発領域のコース科目の一部と特別支援力開発コースの実習科目については、特別支援力開発コースに所属する院生のみ受講となります。

カリキュラムの柱となる実習

「理論と実践の往還」モデル

確かな専門性に立脚した分析力・構想力
複合的な学校課題や教育課題に組織的に対応できる実践力
子どもの多様性や個性の理解に基づく通常教育と特別支援教育に関する実践力
生徒指導と道徳教育に関する指導力



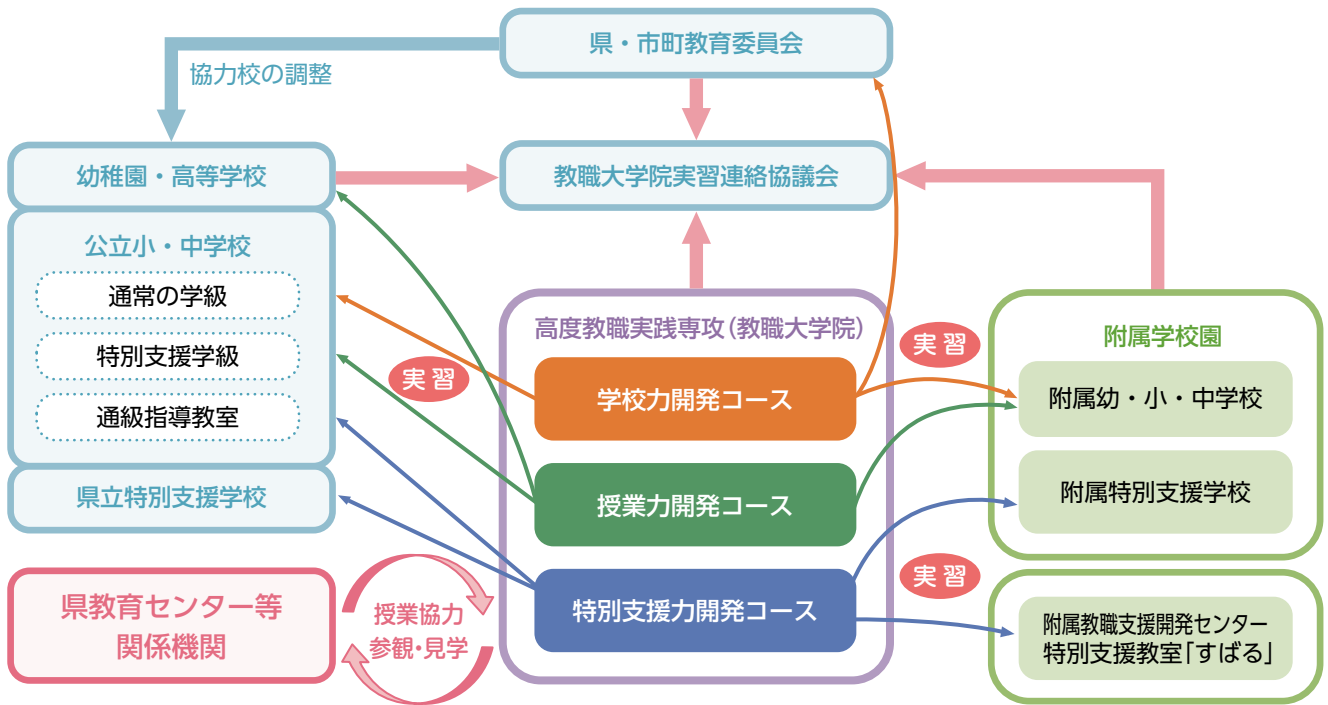
共通科目及びコース科目で修得した教育理論は、実習を通じて具体化します。こうした「理論と実践の往還」を実現させるため、教職大学院に相応しい実習プログラム（臨床実習・探究実習・開発実習）が編成されています。そこには、次の二つの方法が取り入れられています。

- ① 新たな知見や技術の教育実践へ適用と検証（仮説検証型アプローチ）
- ② 実践的な教育課題の共同解決（実践・省察型アプローチ）

実習科目は、実践的な協働課題解決による教職員の総合的成長を保障するものとして構築し、課題発見力、実践・省察力、組織構築力の高度化をめざすものです。「教職実践研究」は、カリキュラムの柱となる実習科目と、習得型・活用型の共通科目・コース科目をつなぐ科目として開講します。各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究が行われます。

教育課題に基づいた実習

教職大学院における実習は、附属学校園・連携協力校等と連携して行います。実習形態は、教育課題により異なります。



これまでに修了した院生の研究テーマの一部紹介



学校力開発コース	中堅教員の主体的学校運営参画への意識の向上に向けた研究
	地域と学校の連携・協働に対する教職員の意識変容に関する研究 —学校運営協議会を核とした体力向上の取組を通じて—
	働く意識の変化に着目した小学校教員の協働活動に関する一考察 —ワーク・エンゲイジメントを視座として—
	小学校における自己評価を生かした若年教員研修システムに関する研究
	中学校における教職員の協働文化の高まりに関する研究
授業力開発コース	中学校における教科を超えた授業研究に関する研究 —考えるための技法「思考の引き出し」を共通視点として—
	友達との関係づくりに焦点を当てて5歳児の育ちを支える —「鬼ごっこ」の実践を通して—
	小学校低学年における手洗いの授業を通して実践化につなげる一考察 —養護教諭の立場としてのかかわり—
	小学校理科の見方・考え方を働かせるための授業改善の一考察 —ユニバーサルデザインの指導の工夫—
	個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現する学習モデル —ICT活用による選択・共有を生かした授業の提案—
	中学校の道徳授業における自己内対話の在り方に関する一考察
	中学校国語科における資質・能力の育成を目指した単元構想 —「立体チャート」を活用した意見文記述の実践を通して—
	生徒の主体的な学びを向上させるための教師の指導に関する一考察 —中学校数学科の授業における自己を見つめる過程に着目して—
	中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽表現領域創作分野の題材開発 —ICTを活用した授業実践を通して—
	読みと思考を深める「書き込み学習」の研究 —高等学校国語科を中心に—
特別支援力開発コース	通常学級において特別な支援を必要とする児童を支える校内体制の整備と個別指導を通じた連携
	通常の学級に在籍する中学生を対象とした自立活動としての作文指導に関する検討 —実行機能の促進と認知的負荷の軽減に着目した個別指導を通して—
	知的障害のある児童に対する集団学習と個別学習の相互作用に着目した自立活動に関する研究
	数量概念に弱さがある小学6年生に対する個に即した算数指導
	通常の学級に在籍する支援を必要とする児童への配慮と当番活動と係活動を通じた学級経営に関する研究
	英語学習に困難のある中学生を対象としたフォニックスに基づく英単語読み指導の検討
	知的障害特別支援学校小学部における家庭学習支援 —オンデマンド動画教材開発とチャレンジ日記の活用—
	特別支援教育の視点における小中連携の効果的な方略 —実践につながる支援の共有のあり方—

授業科目名

科目区分	授業科目の名称
共通科目	教育課程の編成実施に関する領域 カリキュラム編成の理論と香川の教育
	教科等の実践的な指導方法に関する領域 教材研究・開発とICT活用による授業改善 指導法分析と学習支援 学習上のつまずき・困難への指導
	生徒指導及び教育相談に関する領域 生徒指導と教育相談の理論と実践 道徳教育の実践研究 発達支援を視点とした教育とアセスメント
	学級経営及び学校経営に関する領域 自律的学校経営と学校組織 学級経営実践研究
	学校教育と教員の在り方に関する領域 開かれた学校づくりと多職種連携 学校教育の役割と教員のライフステージ
	研究倫理に関する領域 教育実践研究における研究倫理
	小計(12科目)
学校力開発コース	コース科目 道徳教育と学校経営実践研究 学校におけるリーダーシップと組織論 校内研修と人材育成 学校組織における生徒指導と教育相談 学校の危機管理研究Ⅰ：校内体制づくり 学校の危機管理研究Ⅱ：個別事例研究 教職実践研究Ⅰ(学校力開発) 教職実践研究Ⅱ(学校力開発)
	実習科目 学校臨床実習Ⅰ(学校力開発) 学校臨床実習Ⅱ(学校力開発) 探究実習(学校力開発) 学校力開発実習Ⅰ 学校力開発実習Ⅱ
	小計(13科目)

科目区分	授業科目の名称
授業力開発コース	コース科目 子ども理解と学習指導 授業研究の実際 道徳授業の実践研究 授業分析と研究の方法 教科の本質と学問(I・II) 教育の今日的課題と授業実践(I・II) 学習の理論と授業実践(I・II) 教材開発の理論と実践 教職実践研究Ⅰ(授業力開発) 教職実践研究Ⅱ(授業力開発)
	実習科目 学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅰ(授業力開発) 学校臨床実習Ⅱ(授業力開発) 探究実習(授業力開発) 授業力開発実習Ⅰ 授業力開発実習Ⅱ
	小計(20科目)
特別支援力開発コース	コース科目 心理検査の理論と実際 個別の指導計画と個に応じた支援 行動困難と社会性の指導 特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用 言語コミュニケーションの指導 特別支援教育のための生理・病理 特別支援教育の理論と実践 障害に対する心理学的理解と支援 特別支援教育の支援技術 教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発) 教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発)
	実習科目 学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発) 学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発) 探究実習(特別支援力開発) 特別支援教育指導実習Ⅰ 特別支援教育指導実習Ⅱ
	小計(18科目)
合計(63科目)	

※共通科目6領域から各領域最低1科目ずつ選択し、計19単位以上修得する。

コース科目として、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ(4単位)を含み、所属するコースの領域から7科目14単位(学校力開発コースは8科目14単位)を履修し、計18単位以上(他コースのコース科目を含めることができる)を修得する。

実習科目として、各コースの標準履修もしくは現職教職員学生履修が定めるところの各科目10単位を修得する。合計47単位以上を修得する。

主な行事



教職実践研究交流会 (7月)

大学院生・修了生や現職教職員と、実践について情報交換をしながら交流を深めます。

教職実践研究フォーラム (3月)

院生が各実習や教職実践研究(リフレクション)を通して取り組んできた研究成果を発表します。



3つの専門コースの特徴

学校力開発コース

学校力とは、確かな授業力を基盤として形成される力であり、自律的学校経営を支えるために求められる学級経営力や生徒指導力、学校経営力などから構成される総合力であり、こうしたテーマに関わる内容を多角的に学びます。そのため、学校現場での現職教育等への参加及び調査、県教委や市町教委との連携による各種研修会及び各種行事への参加、関係者へのインタビュー調査等、実践的で問題解決的な実習を多様に取り入れます。

- 生徒指導を基盤とする学級経営の内容
- 教育課程編成や校内・校区等の研修を担うために必要な役割
- 危機管理や地域・関係機関等との連携・協働などを含む学校経営や学校の様々なマネジメントに関する内容

社会の変化や地域、保護者の要請に応え主体的に学校改善に取り組むなど、現代に求められる学校力開発の中核的役割を担う教職員を養成します。

現職教職員のみ対象

授業力開発コース

今の時代に求められる「授業」の姿を追究しながら、教科の本質を踏まえた授業開発、道徳教育や授業力向上等の学校課題解決に向け、教育実践を構想し開発するための展望と力量をもつ教職員を養成します。また、様々な「実践と省察」の場を積み重ねる中で、学校全体の授業力向上を担える中核教員としての必要な資質能力を育成します。

- フィールドワーク、アクション・リサーチ、事例研究など、学校現場の諸課題に即した学びの充実

現職教員学生 個人の授業力向上だけでなく、中核教員として周囲の教員をも巻き込んだ、学年団や教科担当、学校全体の授業力を向上させることができる資質能力の形成をめざして、実践力とそれを裏づける理論に関して学びを深めます。

学部卒学生 確かな実践的指導力としての質の高い授業力を身につけるため、教科の専門性を高めながら、教材開発の理論と実践、子ども理解や教科の本質を踏まえた授業開発等に関して学びを深めます。

現職教員・学部卒対象

特別支援力開発コース

附属教職支援開発センター設置の特別支援教室「すばる」(通級指導モデル事業を実施している機関)や附属特別支援学校における指導事例の検討や実習、発達障害等に関わる医療・療育機関等における実習など、演習と実習に重点を置いたカリキュラムを構築し、通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒、特別支援学級、特別支援学校に在籍する児童生徒への指導支援を行い、特別支援教育に関わる校内体制を確立する要となる教職員を養成します。

- 特別支援教室「すばる」での実習
- 特別支援学校教諭専修免許状の取得が可能
- 特別支援教育士(S.E.N.S)のポイント取得

現職教員学生 特別支援教育に関わる中核的な教員として、学習環境を調整して指導支援を実施し評価・改善する能力を向上させます。さらに学校内の教職員や関係機関と連携した支援体制を実現するコーディネート力を高めます。

学部卒学生 幼児児童生徒にみられる多様な教育的ニーズに気づき、特別支援教育の視点を生かした学級づくり、個に応じた指導支援を行う実践力を高めます。個の実態把握や課題を分析する力、課題解決のための指導方法・技術力を養います。

現職教員・学部卒対象

教職大学院での授業の様子



募集する人材像



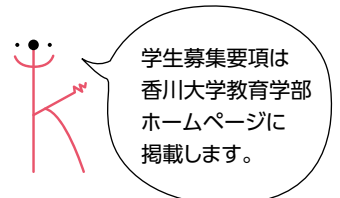
学び続ける教職員一人ひとりの専門性と実践力を高めるとともに、そこで培った力を複雑・多様化する学校教育の課題解決に活かせるよう支援します。

募集する人材像として、次のような方を募集します。

- 〔 **学校力開発コース** 〕 …学校現場の多様な実践的課題に関心を持ち、高度な教育実践力の獲得と向上をめざし、学校教育を支える中核的な人材となることをめざす者
- 〔 **授業力開発コース** 〕 …授業づくりに関する探究心・意欲を持ち、教師間の協働性を高める実践的能力並びに授業力の向上をめざす者
- 〔 **特別支援力開発コース** 〕 …特別な教育的支援を必要とする子どもの学習環境を調整し、質の高い指導支援の実現に取り組むとともに、特別支援教育に関わる校内支援体制の確立をめざす者

入試概要

学 位	教職修士（専門職）
標準修業年限	<p>原則として2年。ただし、以下の制度やコースを活用することもできます。詳細については、学生募集要項を参照してください。</p> <p><修学上の特例></p> <p>(1)短期履修学生制度 優れた教育研究の実績のある現職教職員の方を対象とした制度です。教育委員会からの推薦の他、厳正な審査を経て、1年間の履修によって修了することができます。</p> <p>(2)長期履修学生制度 職業を有している等の事情により、長期履修を希望する方に適用する制度です。2年間で設定されている教育課程を、4年間で上限として履修計画を立て、長期履修学生として在籍することが可能です。その場合の授業料は、履修期間にかかわらず、原則として2年間に支払うべき授業料総額を3年間又は4年間に分割して支払うことになります。</p> <p>(3)小学校教員免許取得コース 3年間の長期履修学生制度を活用して小学校教諭免許状を取得するコースです。大学院で学びながら、学部において開講している小学校教諭免許状のための授業科目を履修することができます。教職大学院では、中高など何らかの教員免許を有していることがコース選択の条件となります。</p>
取得できる専修免許状	<p>小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語） 高等学校教諭専修免許状（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、英語） 幼稚園教諭専修免許状 養護教諭専修免許状 特別支援学校教諭専修免許状（特別支援教育領域：知的障害者、肢体不自由者、病弱者）</p>
募集人員	20人 ※原則として、教育職員免許法に定める免許状を有する（取得見込を含む。）ことが出願資格になります。詳細は学生募集要項をご確認ください。
選抜方法	<p>(1)学力試験日は、A日程、B日程、C日程の3回予定しています。詳細は本学教育学部ホームページをご覧ください。</p> <p>(2)学力試験科目…小論文、口述試験</p>



学生募集要項は香川大学教育学部ホームページに掲載します。

